

2020年9月14日発行(20-1号)

一般社団法人日本社会福祉学会

# 中国・四国地域ブロック会報

発行者: 中国・四国地域ブロック担当理事  
山本浩史(新見公立大学)

広報担当: 片岡信之(四国学院大学)

事務局: 県立広島大学 永野なおみ  
広島県三原市学園町1番1号

ホームページ: [http://www.jssw.jp/district/chu\\_sikoku.html](http://www.jssw.jp/district/chu_sikoku.html)

## 目次

### I. 巻頭言

### II. 2019(令和元)年度決算報告及び2020(令和2)年度予算案、2020(令和2)年度事業計画について

### III. リレーエッセイ「福祉を教えるということ」

### IV. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

## I. 巻頭言

山本浩史(新見公立大学)

今期、理事(地域ブロック担当)に就任しました山本です。前理事、杉山博昭先生から中国・四国ブロック委員会の主務を引き継ぐことになりました。杉山先生には、引き続き副委員長として、委員会をサポートしていただきます。ブロック委員の新体制については、別紙一覧にてご確認いただければと思います。

さて就任して以来、新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)により、会務にも様々な支障が生じています。まず理事に就任して以来、理事会も今年度はすべてweb会議になりました。また当ブロックにおいては、本来、第52回岡山大会(川崎医療福祉大学)を7月4日に開催予定でしたが、翌年に会場をノートルダム清心女子大学に変えての延期となりました。このような中で、ブロックの事務についても引き継ぎが行えておらず、前事務局長であった立場もあり、会計事務を山本が暫定的に預かっております。また本来であれば、皆様に本年度事業計画及び昨年度会計報告等を第52回岡山大会での総会で行う予定でしたが、これもできず、今回の広報誌により公表をさせていただきました。どうかご了承ください。

ところで、収束が見えない、このコロナにより、これまでの日常生活が一変してしまった

のではないのでしょうか。例えば、働き方、子どもの教育環境、家族内でのレジャーや外食、友人との交流、医療機関での診察の受け方・・・と枚挙に暇がありません。私の場合は、4月から6月頃まで長男が通う小学校が休校になりました。幸いにも半日、小学校が児童を預かり、午後からは学童保育が開園されました。それでも、息子を学童保育に預けることができない日があり、職場に連れていく日が幾日かありました。その息子も当初はマスクを着けるのがイヤだ。小学校や学童保育に行っても、友達と話すことも禁止されていて行きたくない・・・等、息子は息子なりに大変な日々であったようです。その息子も短い夏休みを終え、二学期が始まっています。また私たち夫婦は県外出身者であるため、双方とも実家には帰ることができず、自分の父母に孫を会わせることもできずにいます。改めて日常とは何かを考えると同時に、何気ない日常というもののいとおしさと脆弱さを感じてなりません。

私は医師でも医学領域の研究者でもありませんが、このコロナにより新しい言葉も生み出されました。例えば、「コロナ禍」、「with コロナ」、「新しい生活様式」、「ソーシャルディスタンス」等です。しかし、一方で「新しい生活様式」、あるいは、「with コロナ」等といったフレーズはコロナ自体の存在を書き換えてしまっているようにも思えます。コロナ撲滅・・・ではないのです。また特に「新しい生活様式」では「ソーシャルディスタンス」が求められ、人と人との距離をとることが啓発されています。しかし、これまで人と人との交わりや関係性を重視してきたソーシャルワークにとっては、まったく逆の方向性でもあります。かといって、感染症拡大防止のためには、必要な対処であることは間違いありません。まさに感染症予防では「医学モデル」が優先されます。一方、社会生活では「生活モデル」を考慮しなければ、生活自体が成り立たず、そして、社会が回らないのも事実です。特に経済を循環させるためには、感染症拡大防止のための規制ドライブ（方向性）と同時に相反する緩和的ドライブが求められます。

教育においても多大な影響を与え続けています。大学においては、学生間や大学周辺地域住民へのコロナ感染防止の観点から、これまでの対面授業ではなく、自宅等で受講する遠隔講義やオンデマンド講義を行うことになりました。しかし、まったく人との交流がない学習環境下になり、学生のメンタル面での問題や学習意欲の低下等、負の影響も見られたのではないのでしょうか。また専門職実習においては、いわゆる現場実習が行えない事態も発生しています。そして、学生のなかには、コロナの影響により、学費や生活費等の経済的な問題を抱えた学生も現れたのではないのでしょうか。

話が変わりますが、先日、ある高齢者福祉施設を訪れたとき、その施設の施設長から外国人介護職の受け入れも、このコロナにより頓挫し、人員確保がますます不透明になってきたと言われていました。コロナの出現もそうですが、改めてグローバル化された社会に生きていることを痛感します。

どちらにしても、このコロナが収束しない今、日常を取り戻すための方策と非常時を生活するための方策が求められていると言えます。例えば、平時ではグローバル化された経済、あるいは、首都や主要都市を中心とする広域化された国内経済で社会が動いています。しかし、今回のような非常事態の場合、ブロック経済での循環、すなわち地方で考えるべきであったように思えてなりません。今後、このコロナの収束した後、我々には常に平時と非常時の2つを生きていくための多様なチャンネル（方法）が必要になるのではないのでしょうか。そして、令和2年豪雨災害が発生しましたが、コロナだけではなく、自然災害の猛威に対しても同様です。それが本当の意味での「新しい生活様式」になるのではないかと個人的には思っているところです。

さて、就任挨拶にもかかわらず、コロナの文脈で塗り変えられてしまいましたが、これまで横山先生、杉山先生が築かれてこられたブロック体制を堅持しつつも、研究の場として当ブロックを活性化していきたいと願っております。

皆様、どうぞ、今後とも学会及びブロック活動にご尽力と積極的なご参加をお願い申し上げます。

## Ⅱ. 2019(令和元)年度決算報告及び 2020(令和 2)年度予算案、2020(令和 2)年度事業計画について

山本浩史（新見公立大学）

冒頭でも述べましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、第 52 回岡山大会が延期になったことにより、総会を開催できなくなりました。したがって、この掲載により行うことといたしました。

・2019（令和元）年度決算書については、令和 2 年 5 月 31 日、6 月 1 日にそれぞれ、監事、杉原俊二先生、横山正博先生に監査いただいております。

・2020（令和 2）年度事業計画については、前委員長、杉山博昭先生の計画案により前理事会において承認を得ています。

※2019 年度決算書、2020 年度予算案、2020 年度事業計画書、地域ブロック役員体制は別ファイルで添付しています。そちらをご覧ください。

なお、ご不明な点等がありましたら、山本浩史（新見公立大学 [yamahiro@niimi-u.ac.jp](mailto:yamahiro@niimi-u.ac.jp)）まで、ご連絡ください。

### Ⅲ. リレーエッセイ「福祉を教えるということ」

濱崎絵梨（ノートルダム清心女子大学）

川崎医療福祉大学の中尾竜二先生からリレーエッセイのバトンを受け取りました。ノートルダム清心女子大学の濱崎絵梨です。中尾先生には、一昨年（2019年）の日本地域福祉学会第33回大会（於：川崎医療福祉大学）において、ポスター掲示させていただいた学生が大変お世話になりました。

平成30年7月豪雨災害における学生ボランティア活動についてのポスターです。今でも鮮明に覚えています。災害のあった土日の翌日、月曜日の朝、ゼミ生が「何かせずにはられない」と研究室にやってきました。地元学生が多い大学です。学生・教職員の中にも被災された方がいました。とは言え災害直後です。被災地に入ることは出来ません。何ができるか学生と考え、まず、募金活動と支援物資（タオル）の収集を行うことにしました。翌火曜日にはコアメンバーが学長に相談、SNSでメンバーを募り、水曜日にプロジェクトチーム結成、学内での活動がスタートしました。一回目の募金は7月12日。7月31日まで週2回の募金活動を行い、学生、教職員、附属小学校・幼稚園、来訪者等たくさんの皆さまのご支援のおかげで、募金総額は1,053,391円となりました。募金は、被災された学生・教職員へのお見舞い金と、岡山市・倉敷市へ義援金としてお届けしました。

また、7月10日から岡山市災害ボランティアセンター本部において、ボランティア受け入れ業務を手伝いました。授業の空きコマを学生たちで調整しながら、8月30日まで交代で毎日活動を続けました。東区では、家屋の床下掃除や公園掃除など学生たちと汗を流しました。そして、前期の授業が終了したのち、8月7日からは、倉敷市災害ボランティアセンターでボランティアを開始しました。支援物資の整理や掲示物の作成、データ入力の活動を定期的に1月5日まで続けました。その後も、学生たちは「できることを続ける」と、倉敷市真備町のNPO法人マインドこころさんの地域イベントの手伝いなど活動を続けました。

活動は後輩たちに引き継がれ、昨年度は、活動を通じて繋がりのできた同じく真備町のぶどうの家さんと共催で、子どもたちが思いっきり遊んで勉強もするイベントを倉敷市社協さんの助成金をいただいて企画実施しました。今年度もと考えていた春先、新型コロナウイルス感染症の影響で断念せざるを得ませんでした。今年度は、「新しい生活様式」に合わせた地域活動が少しずつ動き始めた少し前から、倉敷市社協さんにお世話になり仮設住宅への訪問を開始しました。県をまたいだ移動が制限されるなか、地元だからできる活動を学生たちと一緒に考えながらこれからも続けていきたいと思っています。

プロジェクトチームのメンバーと、AMDAの難波妙氏（本学卒業生）の対談で、次のようなことが語られました。「誰かのために」という思いの根底にある「共鳴する力」の大切さと、人々と心を共鳴することで育まれる「心の力」が自分の生き方を確立するための「かけがえのない力」になるというものでした。大学に着任してから、「福祉を教える」とは何か考え続けています。さまざまな出会いと、そこでの人格的な関わり合いや感情の交流から多くを感じ成長していく学生の姿を見るにつけ、このような「心の力」を育むことも「福祉を教える」重要な側面だと考えさせられます。これからも、リベラルアーツ教育と人間福祉教育を基盤としたケアを生きる社会福祉士の養成を志していきたいと改めて思いました。

引き続き、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

（今回は、同じ大学ですが新しく着任された中井俊雄先生にバトンを渡したいと思っています）

#### IV. 機関誌投稿原稿募集のお知らせ

日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック機関誌

## 「中国・四国社会福祉研究」第9号

### 投稿原稿募集

中国・四国地域ブロック機関誌（査読あり）の第9号を発行する運びとなりました。中国四国地方ならではの社会福祉の諸課題、社会福祉の実践活動を全国に発信してきたいと考えています。会員諸氏の積極的な投稿をお待ちしています。

#### 投 稿 要 領 等

【執筆要領】 日本社会福祉学会機関誌『社会福祉学』の執筆要領に準じます。  
・チェックリスト提出 ・図表含めて20,000字以内（A4 40字×40行 ワード作成）・3部提出 など  
※投稿要領等の詳細は一般社団法人日本社会福祉学会HPの【投稿要領・執筆要領】のページをご覧ください。  
<http://www.jssw.jp/journal/rules.html>

【原稿の種類】 「論文・実践報告・資料解題・調査報告」の中から選択して投稿可能です。

**【原稿締切】 2020年11月27日(金)**

積極的なご投稿をお待ちしております。

【原稿送付先】 〒799-2496 愛媛県松山市北条660 高杉公人研究室  
中国・四国地域ブロック機関誌編集委員会 事務局宛

その他、ご不明な点は本機関誌編集委員会まで、お問い合わせ下さい。なるべくメールでお問い合わせください。

編集委員会事務局 原稿送付先と同様  
Tel: 089-993-0702 (呼出)  
e-mail: kimiruhito@catherine.ac.jp